

古文書整理：地域資源としての古文書を考える

静岡文化芸術大学 文化政策学部 水谷悟ゼミ・西田かほるゼミ

指導教員：水谷悟 西田かほる

参加学生：太田美樹、折井楓華、熊切滯太、小杉勇人、佐藤智也、清水風帆、鈴木晴日
長野実紅、西野晴香、松井風歌、葭田奈美、安藤彩夏、岩田華歩、太田貴子
加藤由里、金子愛梨、岸綾香、土屋早紀、中島玲奈、山城こゆき

1. 要約

本研究は静岡県榛原郡川根本町千頭の殿岡家が所蔵する8,000点余にのぼる文書の整理・調査を行うものである。殿岡家文書は、殿岡嗽石（1851—1933）によって蓄積された文書群を主とする。嗽石は千頭村戸長・榛原郡会議員・静岡県会議員を歴任し、金原明善とともに植林事業を行ったほか、山林経営、茶業組合、大井川鐵道の敷設、地域郵便局の開設・運営に関わりながら地域青年の指導に努めた名望家であった。つまり本文書群は家史料としての価値を超え、当該地域の歴史・産業・生活を考える上で重要な「公文書」的性格を有している。本文書群を調査整理し広く利用できる状態にすることで、古文書を文化遺産として後代に伝えるとともに、地域の方々と連携し古文書に記された情報や知見を地域資源として活用してもらうための基礎をつくる。

2. 研究の目的

川根本町千頭の殿岡家が所蔵する古文書の調査を行い、概要目録を作成することで文書の散逸を防ぎ、地域資源としての古文書の活用方法を探ることを目的とする。

3. 研究の内容

現在殿岡家には、茶箱類41箱とタンスなどに収納された未整理文書が約4,000点余ある。それらの現状記録を行った上で、文書を1点ごとに中性紙封筒へ収納し、内容や年月日・作成者などの情報を読み取って目録を作成する。その後、目録の情報をデータ入力し、検索が可能な形にする。また、殿岡家には『本川根町史』の編纂時に調査された文書（3,000点余）も保管されているが、現物と目録を対照することができないなど、現状では利用が困難である。そのため既整理分の文書についても整理を行うとともに、目録のデータベース化をすすめる。

文書調査自体が研究活動であるが、文書整理をすすめる中で、殿岡嗽石をはじめとする研究をおこなう。これらの研究は調査中のミーティングを基本としつつ、学生とともに各ゼミにおいて興味を持った史料の翻刻や報告を行う機会を設ける。その際、特に殿岡家史料に見られる地方名望家の「公」的な役割に着目し、当該地域の歴史・産業・生活を復元し、その価値を改めて見直す契機としたい。

4. 研究の成果

(1) 当初の計画

文書群の規模が大きいので、長期間にわたる調査が予測される。初年度にあたる今回は、今後の計画を立てるためにも、未整理文書の現状記録と目録化の作業を可能な範囲で進めるほか、既整理文書の状況を把握することとした。



殿岡家母屋（2階部分に文書が保管されている）

(2) 実際の内容

A：予定どおり

9月6～8日、11月15～17日の各2泊3日で、殿岡家において調査を実施した。事前調査（2018年10月5日）において、未整理文書については保管場所ごとにA～Cの番号を付し、さらに茶箱などの文書収納単位ごとに1から番号を付与した。今回は、母屋2階に保管されていたBから調査を始めた。

学生は複数のグループに別れ、それぞれB-1～11までの文書単位の現状記録（保存状況を写真・スケッチで記録する）を行った。さらに箱などの単位から史料1点ずつを取り上げて中性紙の封筒へ収納し、番号を付与した。封筒に収納した文書は、目録用紙に表題・年代・作成・差出・その他の情報を記入し、内容を記録した。宿泊先では毎晩ミーティングを行い、当日の作業内容の確認と、文書群の情報共有をはかった。目録の記載事項については、後日エクセルに入力し、データベース化している。

既整理分の文書については、11月の調査時に川根本町役場総合支所の会議室に文書を移動し、整理番号順に並べ直して、中性紙段ボール箱に収納し直す作業を行った。

(3) 実績・成果と課題

今回の調査で目録を作成した文書は1400点余である。各単位の点数と主な内容は下記の通りである。なお、文書は袋に入っていたり束ねられたりしているため、枝番号まで含めると（ ）内の点数となる。

B-1	衣類
B-2-1～7	道具類
B-3-1～142 (282点)	幕末～明治期・茶業関係等
B-4-1～18 (208点)	近代・書簡、昭和・日本平神社建設関係
B-5-1～21	近代・軸物類
B-6-1～73 (627点)	大正～昭和・嗽石褒賞関係・大日本山林会関係
B-7-1～25	近代・軸物類

B-8-1~50 (96点、31まで目録終了)

B-9-1~12 近代・軸物類

B-10-1~39 近代・軸物類

B-11-1~131 (199点) 昭和・嗽石ほか葬儀・香典関係



作業風景 (付箋が貼られている筆筒や箱に文書が保管されている)

現状記録カード (スケッチ用)

文書名	殿国家	文書	B
種類	木箱	番	8
容器材質	木製	号	
大きさ	29 cm × 39.5 cm × 29.3 cm		
備考	取川上げ 西側上→下 北→南 上→下		
(保管状況等)	北側		

2. 明治天皇の御用掛の明治天皇
殿国家の嗽石殿
活字

1. 御用掛合書

2. 3. 35. 31. 32. 33. 34.

↑ 4. 5. 6. 7.

下は 8. 14. 15. 20. 21. 22. 23. 24. 25. 26. 27. 28. 29.

8. 9. 書の高さの
10. 幅

調査日 2019年9月6日 記録者 鈴木晴日

史料調査用

現状記録カード (文書の保管状況をスケッチする)



作業風景 (目録作成の様子)

(4) 今後の改善点や対策

調査やデータベース化の作業に追われ、文書群についての内容を検討するに至らなかった。今後は、内容分析とともに、所蔵者や地域の方々との交流を深め、成果の還元をはかる方法を考えたい。

5. 地域への提言

地域社会のあり方が急激に変化していく中で、現在、古文書は滅失の危機にある。市町村史編さんに際して一度整理された古文書であっても、しばしば廃棄の対象となっている。古文書が地域の歴史を知るための重要な文化遺産であることを踏まえ、殿岡家文書にとどまらず、地域の古文書あるいは史跡・石造物を含めた歴史遺産の現状を把握し、保存計画を策定する必要がある。またそれらを文化資源として活用できるように、研究活動を活発化させる方法を一緒に考えさせていただきたい。

6. 地域からの評価

川根本町千頭の殿岡家に保管されている古文書は、地域の歴史・産業・生活を知るうえで重要なものと考えられますが、町ではその具体的な内容の把握ができず、町の歴史的資料として保存すべきか調査する必要がありました。また、殿岡家の所有者・関係者も古文書の散逸を心配されており、今後の調査で古文書が活用されることを期待され、家屋を調査場所として提供くださるなど積極的にご協力いただきました。

今回の調査では多くの学生の皆さんに古文書の整理や調査をしていただきました。この場をお借りしてお礼申し上げます。町の歴史を探るうえで重要な古文書の利活用を図るため、調査の継続をお願いしたいです。(川根本町教育委員会)